



Newsletterは、東京YWCAの事業活動を皆様にお伝えするための広報紙です。毎回特集で取り上げる事業を中心に、東京YWCAの今をお届けします。

特集

野尻90周年
Nojiri

90年前の日本で、女性と少女のリーダーシップ養成のために長野県野尻湖の半島1つをキャンプ場にした先人たちの眼には、何が映っていたのでしょうか。夢を託された私たちは、子どもたちの体験活動を支え、人と自然と共生することの大切さを伝える使命を負っています。

“人と出会うキャンプの再開へ”

2020年・2021年と子どもたちの声が響かない野尻キャンプ場。歴史を遡ると戦時中は指令により7年間中止、1960年代に地震により一部中止、そして感染症拡大で2020年から2年間、全プログラム中止を初めて自主的に決定しました。子どもたちは学校でも体験活動が削られています。キャンプではユースリーダーの役割が大きいです。大学生も人と接する機会が減少し、リーダーの育成にも影響がでています。改めて野尻で集えることの大切さとありがたみを実感しています。

90年前につくられた メインホールに守られて

90周年を機に安全衛生面や水圧改善のために水道設備の改修を計画していた

ところ、室内外の移動に消毒や手洗いが必須となり、手洗い場を増設することになりました。皆様からご寄付をいただきメインホールとゆかりハウスの玄関に手洗い場を新設することができました。当初2021年6月に90周年記念礼拝を東京で、感謝の集いとキャンプを長野で実施する予定でしたが、秋に延期、さらに1年延期しました。懐かしい面々と集い語り合うことも大きな目的です。野尻にゆかりのある人々が集い将来の野尻を語り合える日を迎えたいと思います。

90年前女性と少女のキャンプ 今も変わらぬミッション

1931年に野尻湖畔にある“外人村”で第1回野尻キャンプを実施し翌年には

キャンプ場を開設、日本の女性と少女のリーダーシップ養成のために北米の組織キャンプが導入されました。現在も人生や世界平和を追求するワークショップを組み込んでガールズキャンプを行います。女性活躍が求められる現代の日本では当時の意味合いが大きくなっているのかもしれませんが。障がい児、DV被害や被災地の子どものスペシャルニーズキャンプ、多様な背景を持つ子どもたちが共に生活するキャンプも求められています。自然の偉大さを感じながら、どのキャンプでも平和や環境を考えるようになります。地球市民として今取り組むべきことは何かを考え行動する、そういう青少年を育む使命が私たちにあります。



1930年代 水泳場棧橋にて
昔も今も同じように棧橋があり、野尻湖で子どもたちが楽しく過ごす光景が見られます



野尻を支える人たち



野尻の自然と人に感謝をこめて

野村亮さん／自然のリーダー

大学生の時に初めて野尻を訪れて以来30年以上が経ちました。その間、自然のリーダーとして関わっていますが、今でも訪れるたびに新しい生き物に出会い、新しい発見をもたらしてくれます。これが私にとっての野尻、最大の魅力です。そして、たくさんの生き物に出会えただけでなく、子どもたちとの接し方、その魅力の伝え方など多くのことを学んだ場所でもあります。これからも野尻の自然の素晴らしさを多くの人たちに伝えていきたい！



キャンパーからリーダーに

市村梓さん／リーダー

小学生のときからキャンパーとして参加し、大好きな野尻キャンプにいつまでも残っていてほしい!という思いで、大学生からリーダーとして参加しています。自分がキャンパーとして楽しかったことを伝えたい、と初めは意気込んでいたのですが、子どもたちから、また野尻の自然から、新しい楽しみ方を教えてもらうほうがずっと多いです。大人になっても新鮮な発見をしつづけられるのが野尻キャンプの良いところだと今は思っています。

歌い継がれる キャンプソング

キャンプの様々な場面でキャンプソングが歌われています。昔から変わらず歌い続けられている曲もあり、キャンプソングでも野尻の歴史が受け継がれています。



キャンプソング集「私たちの歌」

野尻キャンプ90周年記念事業

野尻からひらく ～新しい時代に向けて～

**伊庭高子さん／
90周年記念事業実行委員長**

90周年を迎えるにあたり実行委員会は、これまでの歴史とYWCAのキャンプが大切にしてきたことを次世代に伝えること、野尻をフィールドにして“新しい活動”を考え試行する中で若いリーダーが育つ機会を作りたいと考えました。そのコンセプトで計画したイベントはコロナ禍で全て中止となり残念ですが、一方で野尻の施設整備は皆様のご支援を得て予定通りに完了。今年は活動再開に向けて一歩ふみ出す年にしたいと思います。



水道管、手洗い場、シャワー室の工事が完了

キャンプ活動の充実と 参加者の安全のために

90周年記念事業に多くの方々からご寄付いただき感謝いたします。定期的な施設整備により、90年前の建物が変わらず私たちを見守っています。建物や環境の維持には継続的な整備が必要です。引き続き皆様のご協力をお願いします。

お問い合わせ先・最新情報

青少年育成事業部
教育キャンプ課

☎ 03-3293-5466 ✉ petau@tokyo.ywca.or.jp
🏠 <https://www.tokyo.ywca.or.jp/child/camp/>





親子で野尻の大ファンです

 小谷麻希さん/リーダー・保護者

私が野尻キャンプのリーダーを始めたきっかけは中学生で参加したフレンドシップキャンプがとても楽しく、また野尻に行きたいと思ったからです。それから20年以上経ち、今では親子で参加するようになりました。子どもたちにも野尻の自然を味わわせたい、色々な人と関われる人になってほしいと思っています。キャンプ中の様子を見ると、自分のことは自分でやるようになり、友だちに優しく接するなど良い刺激になっていると感じます。



野尻支援会 ～陰ながら野尻を応援～

 嶋結子さん/野尻支援会

2006年に改築したゆかりハウスに集ったオールドキャンパーたちは、自分たちにとって、野尻キャンプがかけがえのない体験であったことを改めて確信し、野尻キャンプを多角的に支援し始めました。寄付品やTシャツ等のオリジナルグッズ販売を通して財政的支援をして、さらに、支援会主催のキャンプやイベント実施により、キャンプの重要性を伝え、多くの人たちに選ばれるキャンプをめざして、広い意味での広報活動に取り組んでいます。

Topics 東京YWCAの最新の活動の中から、注目の話題をお伝えします。

DV被害者が急増しています

その支援者へのサポートも急務です

前号の特集「支援者エンパワメントプログラム」に、多くのご寄付を頂戴し、ありがとうございます。昨年度も11、12月に支援者トレーニング、2月にフォローアップ研修をオンラインにて実施しました。「仲間がほしい」「目標がほしい」「もっともっと、スキルがほしい」という支援者の声を形にしたプログラムは、多くの支援者エンパワメントにつながっています。今後もご支援よろしく申し上げます。

*本トレーニングはジョンソン・エンド・ジョンソン日本法人グループの助成を受けて実施しています。

*vol.22 P2「支援者トレーニングをオンラインで実施」の記事中に、上記の注が抜けていました。訂正してお詫びします。

ディープウォーターウォーキング

水深3.5mのプールを生かした水中運動

浮具をつけて足がつかないプールで運動します。はじめは簡単ではありませんが、回数を重ねるごとに体幹をはじめ様々な筋力が強化されバランスがとれるようになります。これが関節痛や姿勢の改善につながります。外出自粛で一旦休んだ人は改めて効果を実感し、感染予防に気をつけながら続けている人が大勢います。今年度はクラスを増設しています。

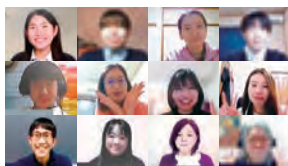


お問い合わせはYWCAフィットネスワオへ

ムードは壊してなんぼ!

Rise Up! School Visits企画

2月21日に青山学院高等部の生徒を対象にワークショップをオンラインで開催しました。自分や大切な人を守り、豊かな恋愛・対等なパートナーシップを築くにあたって欠かせない「性的同意」。



笑顔の生徒と先生と企画チーム

ワークでは、ありそうなデートの場面を想定し、断る、同意する自己決定の方法を生徒6人と一緒に考えました。

東日本大震災被災者支援

福島の子どものためのキャンプ

新型コロナウイルス感染症の影響で2年間中断している福島の子どもたちをキャンプに呼ぶ事業は、今夏の再開を目指して、いわきの重症心身障がい児デイサービスを行っているNPO法人に参加の声をかけ、準備を進めています。

